令和５年度における経営協議会学外委員からの意見への取組状況

学外委員からの意見	取組状況 （意見についての検討状況，意見を基に具体的に実施した取組事例）
第130回経営協議会（R5.6.15）	
（1）【報告】令和４年度診療稼働額等実績報告	
① 附属病院は，地域への医療貢献と同時に，そこから収益を得られるところでもあるので，そこで働く医師に頑張ってもらえるような環境づくりが大事である。	附属病院における将来構想計画を現在策定中であり，大学病院としての在り方・目指す姿に基づく全体計画の中に医師の採用計画を盛り込むことを予定している。診療体制の充実とともにタスク・シフト／シェアを進めるなど働き方改革による環境改善に取り組むことで医師をはじめとする職員のモチベーション向上を図る。
（2）【報告】金沢大学発ベンチャーキャピタル（株式会社ビジョンインキュベイト）の認定取得	
① １点気をつけなければいけない点として，金沢大学が全て出資しているので，リスクをはっきりと明示しておく必要があるということである。	金沢大学の出資リスクについては，経営協議会での説明（第126回及び127回）のほか，第237回教育研究評議会（令和4年12月16日開催）及び第240回教育研究評議会（令和5年2月17日開催）において説明を行った。今後本学がとる措置として，本学と株式会社ベンチャーキャピタルが開催する定例会等において事業進捗状況を把握し，当該会社の業務運営状況や投資事業有限責任組合の運用実績の報告を受ける際に，必要に応じて，当該会社に対して株主として事業計画の見直し等の提言を行うこととしており，当該会社の事業進捗状況等については，引き続き経営協議会及び教育研究評議会において報告する。
第131回経営協議会（R5.7.20）	
（1）【協議】第４期中期目標期間における意欲的な評価指標の再申請	
① 面積を評価指標にすることについて，面積そのものではなくプロダクティビティの観点からの指標がよりわかりやすい。	意見を受け検討した結果，当該中期計画は施設マネジメントの項目であるため，その目標として，本学の研究力強化を念頭に置いた研究スペース確保を指標とすることとした。意見のあったプロダクティビティの観点については，研究の成果に計画においてカバーする。
（2）【報告】金沢大学基金の令和４年度実績・令和５年度計画	
① 父母の会などを活用した寄附の呼びかけを考えるとよい。また，教員が寄附をすることも重要である。	学生の父母等に対しては，入学宣誓式，父母等との懇談会において募金ブースを設けるなど，広く寄附を募るとともに，広報誌「Acanthus」とともに基金の案内を郵送するなど，寄附の呼びかけを進めている。 父母の会については，他大学の状況も調査し，今後検討を進める。 教員に対しては，教育研究評議会等で，基金担当理事から寄附の呼びかけを行うなど，学内への周知にも努める。

令和５年度における経営協議会学外委員からの意見への取組状況

学外委員からの意見	取組状況 （意見についての検討状況，意見を基に具体的に実施した取組事例）
第132回経営協議会（書面附議）（R5.10.11～17）	
（1）【協議】国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等	
① 特に補充原則3-4-1及び補充原則3-4-1①について，資料1-2記載の意見を踏まえてどのように修正するか確認いただきたい。	当該補充原則について，ガバナンス・コードへの適合状況については現時点で追記等は行いませんが，資料1-2に記載のとおり，学長が指名する法人監査室長については、法人監査室の独立性が担保されるよう検討していきます。
（2）【報告】令和６年度概算要求	
① 概算要求事業評価（施設整備費補助金）においてＢ評価となった防災設備の改修について，次年度は自己財源で対応するのか。	文科省の評価では、長寿命化への推進が示されている中で、事業の経年について非常に重視されており、Ｂ評価となったと認識しています。このような状況を踏まえた上で、適切に予算要求を行うとともに、防災設備の機能については、法定点検及び常駐する監視業者による日常点検等を徹底して行っていきます。
第133回経営協議会（R5.12.15）	
（1）【報告】令和５年度科研費交付内定状況	
① 不採択となった研究者に対する，学内の支援制度について，支援の成果分析が行われており，よいことである。	学内支援制度について今後もPDCAサイクルによる見直し・改善を図り、本学研究者のニーズに合った効果的な支援策を実施していきます。
② 日本学術振興会では主任研究員を毎年公募している。審査する側からの視点で制度を見ることもよい。	主任研究員・専門研究員には毎年多数の本学研究者を推薦しています。今後も本学研究者を積極的に推薦し、審査員の経験で得た知識や情報も活用した幅広い視点からの学内支援を行っていきます。
（2）【その他】観光デザイン学類の定員増に係る専門人材育成	
① 地元自治体として，今後も学生の人材育成に協力していくとともに，大学からは観光施策への専門的な知見を得るなど，引き続き連携していきたい。大学との情報交換の機会を増やしてほしい。	本学の観光デザイン学類及び先端観光科学研究所が中心となって、石川県・金沢市・北陸経済連合会等と連携し、各々が有する観光に関わる情報と知見を共有し最大限活用することで、石川県を中心とした地域の「サステイナブルな観光の実現」と「新たな観光価値の創出」、「観光を通じた震災復興への寄与」を目的とした協議会の設置について検討しています。なお、設置に向けた調整の時期は未定ですが、各機関の担当者と連絡を取りながら、検討いたします。